

登録コード:MH418300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	精神障害作業治療学特論【20M以降】 Advanced occupational therapy for mental health		
担当教員	小林 正義		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学専攻/3年 後期 火曜・2時限		
単位数、講義室	1単位	保健学科121講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	⇔	精神保健医療福祉の潮流を理解するとともに司法精神医療、認知リハビリテーション、地域生活支援の方法論を修得し、EBPに基づく作業療法を実践できる。
	MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・作業		
	＜基礎的・専門的な知識と技能＞保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	⇔	精神医療保健福祉の領域で現在求められている早期介入・リハビリテーション、退院促進支援、包括型地域生活支援、就労移行・継続支援、多職種連携の方法論を説明できる。
授業で学べる「テーマ」	＜科学的探求力＞変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	認知行動療法・SST・認知リハビリテーション、地域生活支援・就労支援における作業療法の役割および心理社会的リハビリテーションと作業療法の課題を説明できる。
	地域運営、多文化協働		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	この授業では、心理社会的リハビリテーションの潮流を学びます。2年次の「精神障害評価学実習」と「精神障害作業治療学Ⅰ」および3年次前期の「精神障害作業治療学Ⅱ」で学修した内容を基に、精神医療保健福祉の領域で現在求められている早期介入・リハビリテーション、退院促進支援、包括型地域生活支援、就労移行・継続支援、多職種連携の方法論を理解することを目的とします。 本授業は、担当教員の精神医療・保健・福祉領域の作業療法実践の経験を活かして講義を行います。		
授業計画	第1回（9月29日）司法精神医療における作業療法 第2回（10月6日）地域生活移行支援 第3回（10月13日）退院促進プログラム 第4回（10月20日）心理教育（正体不明の声）バーチャルハルシネーション 第5回（10月27日）認知行動療法と作業療法 第6回（11月10日）認知リハ（神経認知と社会認知） 第7回（11月17日）SSTの理論と実践 第8回（11月24日）べてるの家のSST 第9回（12月1日）リカバリー ＜中間試験＞ 第10回（12月8日）包括型地域生活支援（ACT） 第11回（12月15日）包括型地域生活支援（ACT/IPS） 第12回（12月22日）就労支援（IPSモデル） 第13回（1月5日）認知リハビリテーション（MCT・SCIT） 第14回（1月12日）マインドフルネス・オープンダイアログ 第15回（1月19日）精神保健と作業療法の課題（授業アンケートの実施） 第16回（1月26日）＜期末試験＞		
授業の進め方	授業はテキストとスライド・配付資料、DVD教材を使って行います。能動学習を促進するために配付資料はeALPSに掲載します。授業の中で予習・復習を通して学んだ内容に関する質疑応答を行います。		
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 1) 富岡詔子，他・編：作業療法学全書改訂第3版第5巻,精神障害（協同医書出版） 2) 香山明美,他・編:生活を支援する精神障害作業療法-急性期から地域実践まで(医歯薬出版) 【参考書】 1) EBPツールキットシリーズ（精リハ学会） 2) 原田誠一：統合失調症の治療（金剛出版） 3) 伊藤絵美，他：認知行動療法べてる式（医学書院）		
成績評価の方法	中間試験，期末試験に基づいて総括的に成績を評価します。 総括評価の配分は，中間試験50%，期末試験50%とし，総計の60%以上の得点を合格とします。中間試験は第9回（12月1日），期末試験は第16回（1月26日）に筆記試験を実施します。 中間試験と期末試験では，司法精神医療，退院促進支援の方法論，認知行動療法・SST・認知リハビリテーションの実践方法，地域生活支援・就労支援における作業療法の役割，心理社会的リハビリテーションと作業療法の課題の理解度を確認します。試験結果については実施後にフィードバックします。		

成績評価の基準	中間試験，期末試験に基づいて総括的に成績を評価します。 総括評価の配分は，中間試験50%，期末試験50%とし，総計の60%以上の得点を合格とします。中間試験は第9回（12月2日），期末試験は第16回（1月27日）に筆記試験を実施します。 中間試験と期末試験では，司法精神医療，退院促進支援の方法論，認知行動療法・SST・認知リハビリテーションの実践方法，地域生活支援・就労支援における作業療法の役割，心理社会的リハビリテーションと作業療法の課題の理解度を確認します。試験結果については実施後にフィードバックします。
事前事後学習の内容	本授業の単位修得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。授業時間30時間（2時間×15回）＋ 自己学習時間15時間（1時間×15回）＝ 45時間 【事前学習】 毎回の授業の終わりに次回までに行ってくる課題を指示します。講義資料の一部は能動学習を目的にeALPSにアップします。 【事後学習】 毎回の授業の終わりに課題について教科書や参考書で再確認し理解を深める箇所を指示します。指示された箇所は中間試験・期末試験の範囲となります。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	精神保健医療福祉領域は変革期を迎え，求められる支援内容も多様化しています。授業では基礎理論を補うと共に最新情報を取り入れ実践論的な内容を取り入れますので，理解を深めてください。 質問への対応：小林正義 mkobaya@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日 12：10-13：00 保健学科南校舎2階 小林研究室